

精巣捻転における superb microvascular imaging による血流評価

小坂 征太郎 (茨城県立こども病院 小児外科)



この度はこのような名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございます。

茨城県立こども病院で研修した2年間で超音波検査は診断するだけでなく、病態把握までより一層深く理解できるということを学ばせていただきました。今回このような経験から、小児精巣捻転症における術中、術後の精巣の血流評価により、精巣温存が可能か判断する指標になるのではないかという疑問を抱き、本論文の作成にいたしました。

私は幸運にも大学病院で研修中は基礎研究を軸にしながら臨床に携わる機会をいただき、研究を通じて論理的思考から問題点を克服する力を養うことができました。未だ機能予後の改善が望まれる小児泌尿器疾患は多く存在しますが、研究を軸としながら、常に臨床医学の発展を最終的なゴールとするブレないリサーチマインドが重要だと考えております。

現在は山高先生のご高配により Children's Hospital of Philadelphia で人工胎盤 (EXTEND) の研究に携わっております。ハイレベルな環境下で自分自身のリサーチマインドを確立するとともに、この経験を活かし臨床医による視点と融合させることで、小児泌尿器科領域の発展に向けて帰国後も精力的に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、この場をお借りして本論文の御指導をしてくださった矢内先生、浅井小児超音波診断・研修センター長をはじめ茨城県立こども病院の先生方に感謝御礼申し上げます。